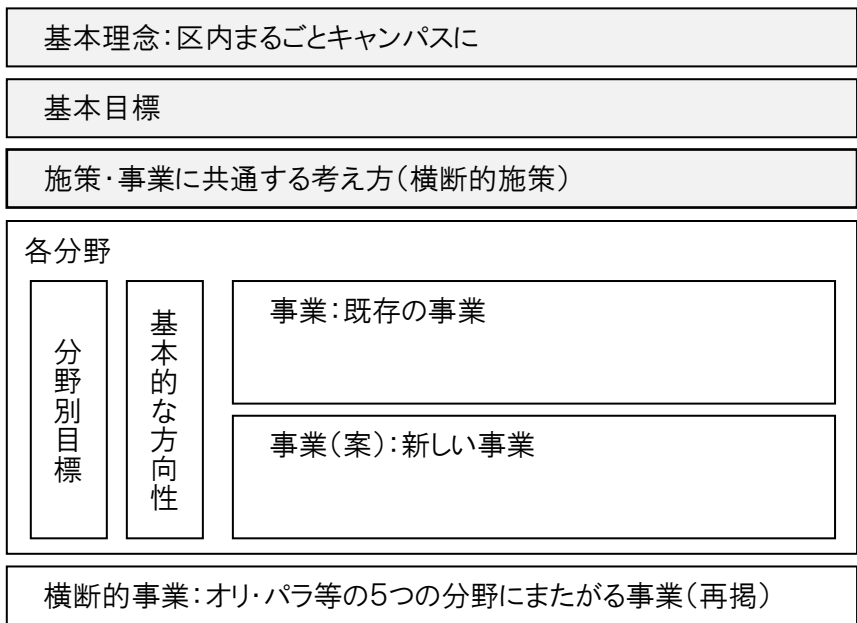


文京区アカデミー推進計画 | 第3回協議会
横断的施策について

■横断的施策の考え方

横串＝分野別計画の基本的な方向性や事業を考える上で共通する視点や考え方

■計画全体の構成(案)



- 上の図のグレーが総論部分、白い部分が各論になります。
- 「施策・事業に共通する考え方」は、個別具体的な事業ではなく、アカデミー推進計画全体ならびに5分野に共通する考え方(コンセプト)になります。
- 「横断的事业」は、情報発信やオリンピック・パラリンピックに代表されるように、複数の分野(かならずしも5分野でなくても可)をまたぐ分野について、各分野における事業をまとめて掲載します。
- 原則として、どの事業もアカデミー推進部における担当を明らかにするため、「横断的事业」のみに掲載される事業は設けません。(横断的事业担当課はないため)

■横断的施策(案)

- あらゆる区民の活動の支援(子ども・若者・子育て世代・団塊の世代・高齢者・障害者・外国人)
- 活動へのきっかけづくり
- 人材育成と活用(区民協働・住民自治)
- 区民ニーズの収集/適切な情報の提供
- 文京区ならではの魅力・区のイメージづくり
- コミュニティの形成(サークル、仲間づくり、世代間交流)
- 庁内部局を含む関連団体との連携(小・中学校、大学、商店街、企業、プロスポーツチーム)
- 区内の資源の有効活用(文化財、東京ドーム、留学生、地形)
- 機会としてのオリンピック・パラリンピック(オリンピック・レガシー)
- 活動を楽しめるまちづくり・環境づくり
- まちあるき
- 地域の情報ハブとしての図書館

横断的施策	それに関する主なご意見等
あらゆる区民の活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○学校外でスポーツに取り組める機会を子どもに提供していくことは考えられるか。(スポーツ) ○交流の機会の対象として外国人住民も含まれていることを示した方がよい。外国籍の子どもたちへのアプローチも必要。(国際交流) ※「障害者スポーツの普及振興」(スポーツ分野の基本的な方向)
活動へのきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○アスリートではないので、みんなで楽しめる機会をもてるとよい(スポーツ) ○言語の壁もあるため、「国際交流」という言葉が敷居を高くしている。まずは敷居を下げて、交流に対して前向きになってもらうことが大事だ(国際交流) ○文化芸術の鑑賞に前向きになってもらう
人材育成と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○国際交流は区民で既に取り組んでいる人がたくさんいる。そういう人を区が探してはどうか。(国際交流) ○指導者の特性をふまえた適切な人材活用を考える必要があるのではないか。(スポーツ)
区民ニーズの収集／適切な情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○区の特徴に関する情報収集(大学、医療、坂道、文豪、銭湯、建築物、江戸文化、能など・・・)(文化芸術) ○何に価値があるのか、地元の人でも気付かないことがあるので、どのように外の目線を入れるのか、よそ者、若者の複数の目線を向けないといけない。(観光) ○情報発信だけでは一方通行となる。イメージ調査や観光客の導線等、観光施策を検討する際のデータ集めをしないと、いつまでも思い込みで進めてしまうことにもなる。(観光)
文京区ならではの魅力・区のイメージづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○区の特徴(ナンバーワン)のPR(文化芸術) ○世界に発信できる明確なコンセプトがあるとよい。外国人など、人にサービスするという視点と、自分自身を表現するという視点の両方の視点で考えていけるとよい。(国際交流) ○文京区のシティセールスの視点は何か。「文の京」なのか、それとももっと分かりやすい何かか。(観光)
コミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なのはサークル同士が交流する場をより充実させることだ。交流を広げる場があれば、区民自身が学び、コミュニティが広がる。(生涯学習) ○テーマ型コミュニティという考え方で、地域を超えてサークルをつないでいけるとよい。(生涯学習) ○スポーツ一辺倒ではなく、おしゃべりとかお茶も大事。そういう組み合わせであれば、スポーツが苦手な方も参加しやすくなる。(スポーツ)
庁内部局を含む関連団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○教育との連携は大事だと思う。教育分野との連携はむしろかしいかもしれないが、情報共有を図り、適宜発信するなどは考えられるのではないか。(国際交流) ○小・中学校で地元のことを学ぶ際に「観光」という外側の視線が加味されると立体席になるのではないか。(観光)
区内の資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ○UNWOMEN や大学、留学生、ABK などの地域資源の活用することで機会の拡充が可能ではないか。(国際交流)
機会としてのオリンピック・パラリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ○オリ・パラをきっかけとした交流を事業として含めたい。ただ、オリ・パラのときに何をするかではなく、「変化」のきっかけとして活用するとよい。(国際交流)
活動を楽しめるまちづくり・環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○運動したいと思える仕掛けをするのはどうか。体を動かしたくなるまちになることがよい。(スポーツ)
まちあるき	<ul style="list-style-type: none"> ○国体のときにウォークラリーが行われた。スピードだけでなく、頭もつかうゲーム性のあるものだったので、観光と絡めて考えられるのではないか。(スポーツ) ○地域の文化や歴史を親しむにあたって、ガイドボランティア、まちあるき観光との連携(文化芸術)
地域の情報ハブとしての図書館	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館で生涯学習の情報を集約・整理し、案内してもらえるとよい。